

平成 30年度 一学期 終業式 式辞

おはようございます。今日で 一学期も終了。今日の午後からは楽しい夏休み。楽しみですね。

この一学期はみんなにとってどんな一学期だったでしょうか？どんなことが心に残ったでしょうか。毎年、一学期の修了式にはその時に感じた詩を読むことにしています。今年は谷川俊太郎さんを紹介し

ます。
「生きる」という詩、習いましたか？

今から10年前に、今で言うツイッターみたいなものに
「早速ですが、みなさん良ければ、谷川俊太郎氏の傑作の一つ「生きる」にちなんで、ここでもみなさんの「生きる」を繋げて一つの詩みたいなものを作りませんか？」という呼びかけがあって
あっという間に2万件を超える応募が集まったそうなんだけど、そこで応募があった中で小学校6年生の「生きる」事に書いた詩がすばらしい話題になって。今日はその、小学校6年生の子が書いた詩を紹介します。

生きているということ
いま 生きているということ
水色の空を見てうれしくなること
深緑の葉を見て幸せになること
夢がかかえきれなくなること
進む道が 見えること

生きているということ
いま 生きているということ
それは黒色 それは真夜中
それは雷 それは台風
それはクラムボン それは江戸川乱歩
昔の「きれい」が「好き」になること
進む道が かわること

生きているということ
いま 生きているということ
からかわれてはらがたつこと
おこられてはずかしいこと
しっぱいをこうかいすること
むしをいやがること
くらいよみちをこわがること
じぶんがきれいになること
進む道が 見えなくなること

生きているということ
いま 生きているということ
絵をかくのに夢中になること
だれかの不幸を悲しめること

だれかの幸運をいのれること
いま いまが楽しいこと
道が見えなくなっても
あるくこと

誰かの不幸を悲しんだり、誰かの幸運を祈れたり、これはとても素晴らしいことです。
また、たとえ道が見えなくなってもまず歩く。これも生きるうえではとても大切なことでないでしょうか。
今、ここには613名の仲間がいます。613名の「生きる」があります。今日の詩はホームページに載せておくので、この夏休み、一人ひとりの「生きる」を考えてみてはどうでしょうか。
入学式や始業式で言った、「君たちはどう生きるか」というものです。

そして、ひょっとしたら、中には毎日が苦しくて、「生きる」も何も考えることがしんどい子もいるかもしれませんが、本当に辛くて、どうしようもなかったら、学校のホームページにも番号を書いています、悩み相談室に電話してください。0120-078310 0120 のゼロ ナヤミオーです。覚えてくださいね。もうひとつ今年新しい試みがあつて、悩みがあつたときに、電話ではなくて、ラインのアプリを取得したら、ラインで悩みが言える機能ができました。本当にしんどくなったら、一度試してください。これも学校のホームページに載せておきます。

さあ夏休み、いろんなことに挑戦して、彩り豊かな時を過ごしましょう。
中学生の夏は今しかないですからね。

そして8月27日にまた全員の元気な顔を見られるのを楽しみにしています。

平成30年4月9日 大阪市立中野中学校 山本哲哉